

# 村上市景況調査報告

平成25年4～6月期の実績と平成25年7～9月期の見通し

調査時期：2013年6月中旬～2013年7月上旬

調査対象：村上市内事業所 200社 有効回答数 143社（回収率71.5%）

〔業種別内訳〕 卸売・小売業64社、建設業41社、製造業28社、飲食店・宿泊業20社、サービス業47社  
〔地区別内訳〕 村上地区103社、荒川地区33社、神林地区21社、朝日地区20社、山北地区23社

実施機関：村上市商工観光課

村上商工会議所、荒川商工会、神林商工会、朝日商工会、山北商工会

分析機関：村上商工会議所

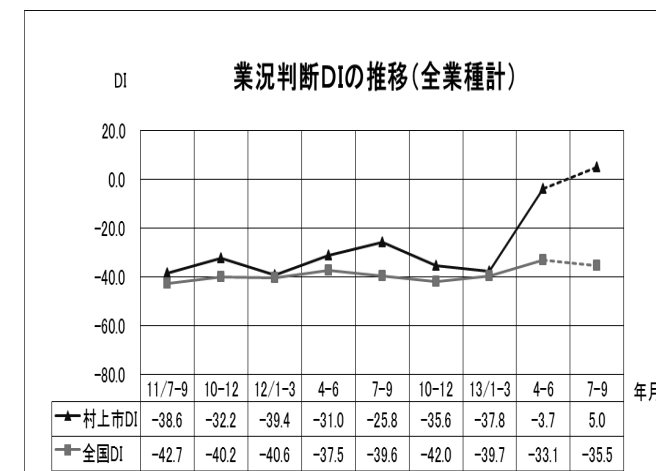
全国状況：全国中小企業動向調査結果【小企業編】（2013.4～6実績、2013.7～9見通し）

日本政策金融公庫 総合研究所

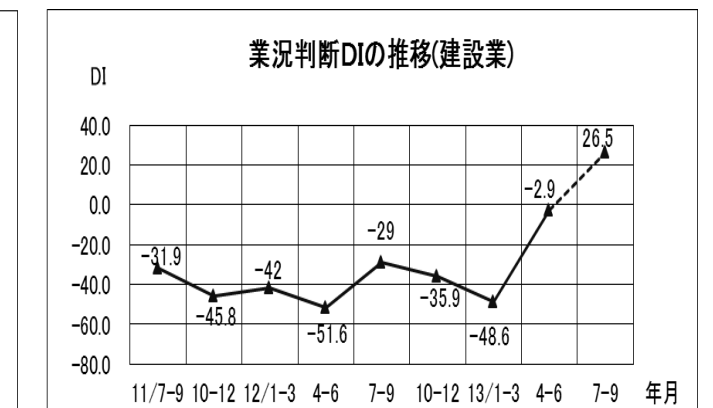
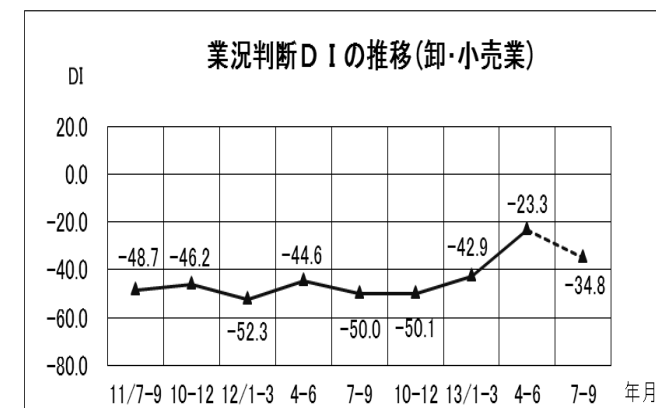
DI = 「良い」企業割合 - 「悪い」企業割合（売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。）

## 『市内の景況は、持ち直しの動きがみられる』

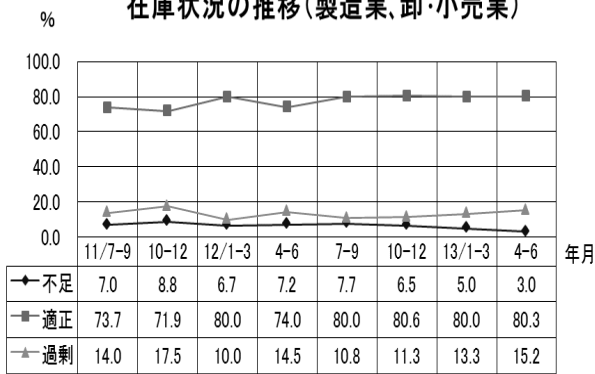
### ■村上市の業況



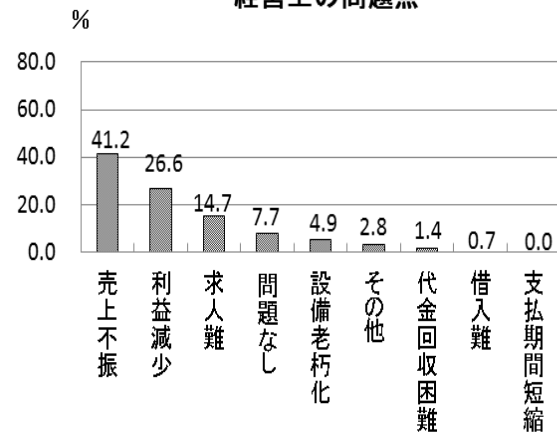
今期(13/4～6月期)の業況判断DI(全業種計)は、前期(13/1～3月期)に比べて34.1ポイントの大幅増加で▲3.7となった。前年同期比でも、27.3ポイントの大幅増加で、前期における今期予測よりも3.2ポイント上回った。DIの水準は、調査開始(08/4～6月期)以来最高。DIが急上昇した要因は、全業種でDIが上昇したためで、特に建設業、製造業、飲食・宿泊業の上昇率が高い。来期(13/7～9月期)については、DIが更に、8.7ポイント上昇し、+5.0となる見通しである。上昇を予測している業種は、建設業、飲食・宿泊業、サービス業の3業種で、25年度予算の実施や消費税増税前の駆け込み需要、観光オンシーズン等への期待感がうかがえる。一方、金利上昇や円安による原材料高騰等の足かせ懸念もある。



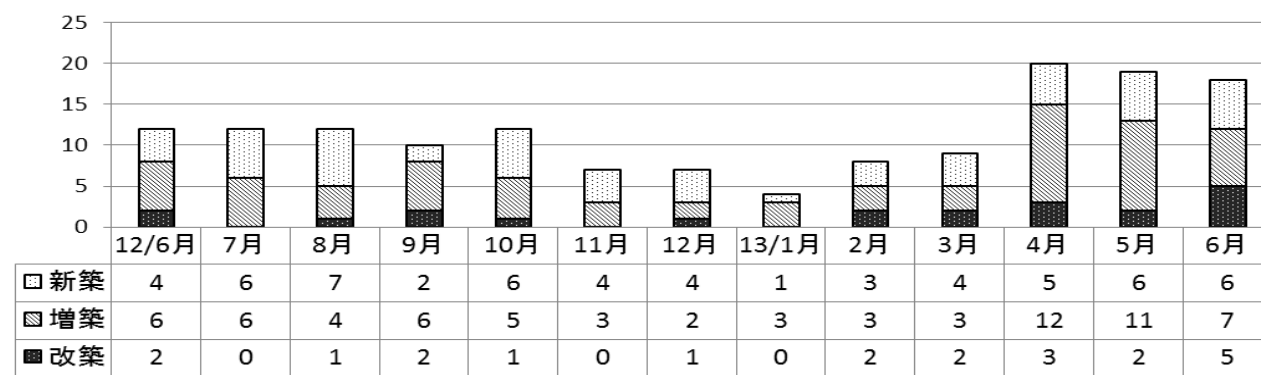
### 在庫状況の推移(製造業、卸・小売業)



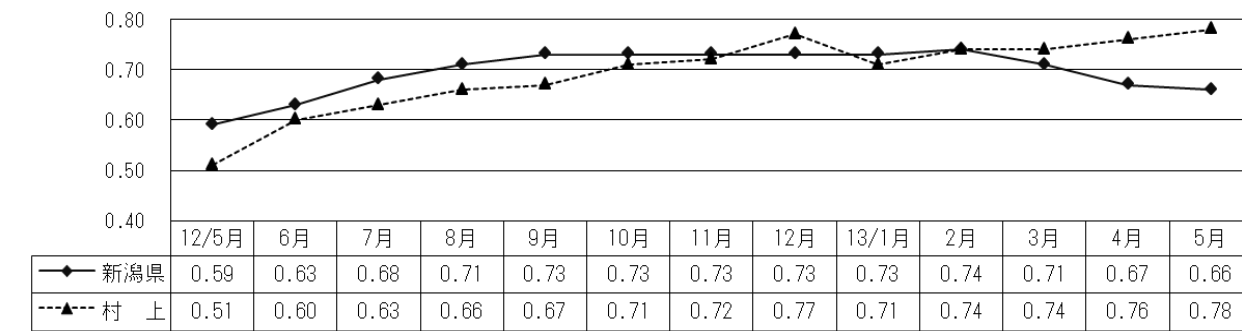
### 経営上の問題点



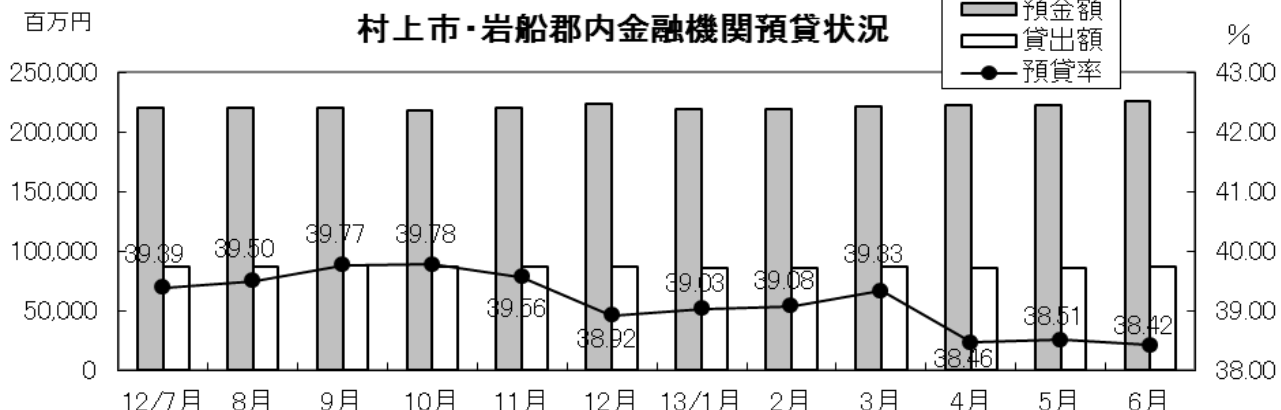
### 建築確認申請件数

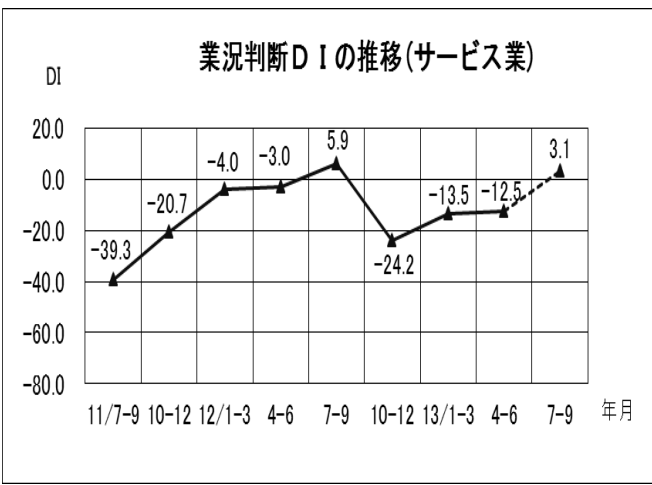
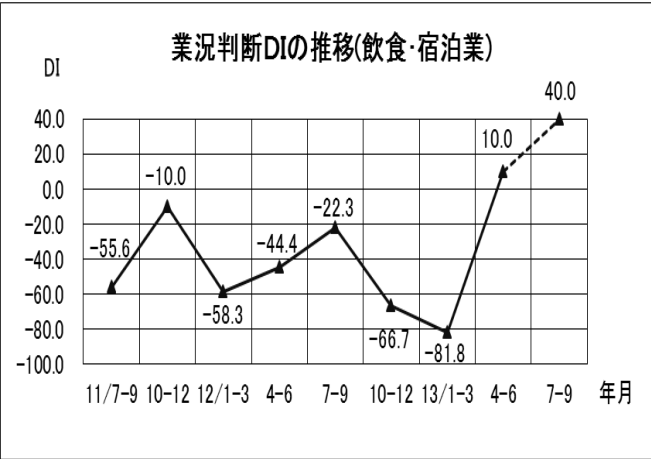
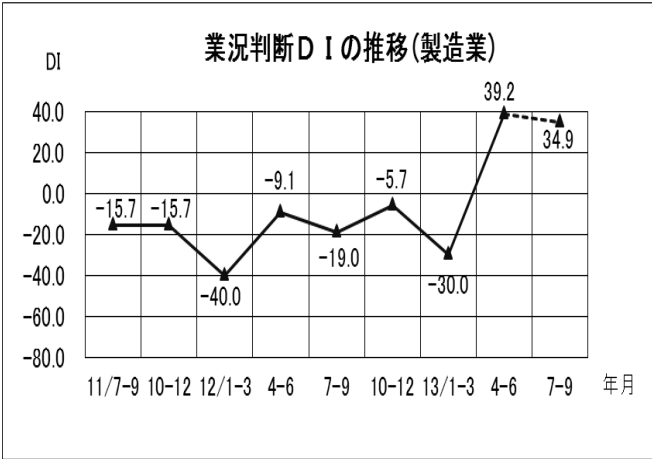


### 村上職安管内有効求人倍率(パート除く常用)



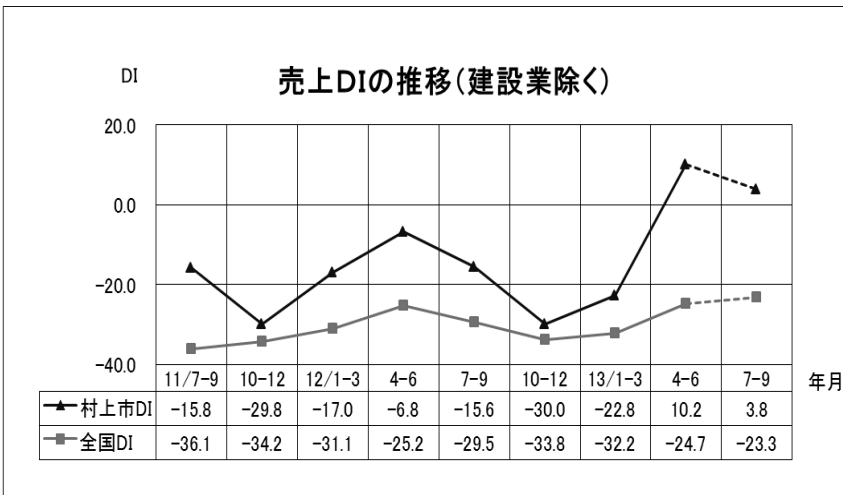
### 村上市・岩船郡内金融機関預貸状況





今期の業種別業況判断DIは前期比で、卸・小売業がスーパー閉店に伴う一時的な売上増加等で19.6ポイント、建設業も国の補正予算による受注増加等で45.7ポイント、製造業も消費税増税前の駆け込みや新商品開発などの自助努力等で69.2ポイント上昇した。また、飲食・宿泊業も震災前の水準に戻ったとの声も聞かれるなど91.8ポイント上昇し、サービス業も1.0ポイント改善した。

来期については、卸・小売業がスーパーの開店等の影響を受けDIが減少、製造業は夏場の電力費増加などの懸念はあるもののほぼ横這い圏域の見通し。建設業、飲食・宿泊業、サービス業は、25年度予算による公共工事の増加や消費税増税前の駆け込み需要、観光オンシーズンによる来客増等でDIが上昇する見込み。

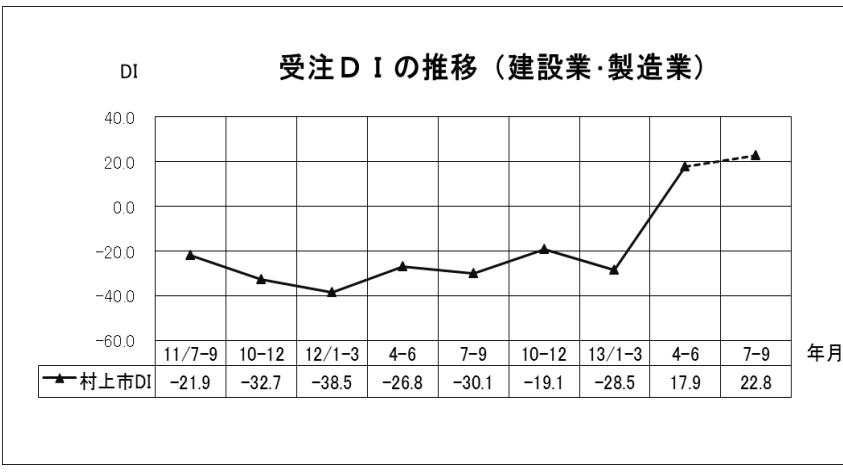


今期の売上DI(建設業除く)は、前期比33.0ポイントの大幅上昇で+10.2となり、前期における今期予測より18.6ポイント上回った。上昇は2期連続で、水準は調査開始以来最高。

全国DIも、前期比7.5ポイント上昇し▲24.7となり、2期連続の上昇。

来期については、6.4ポイント低下し+3.8となる見通し。

全国DIは、更に1.4ポイント上昇する見通しである。

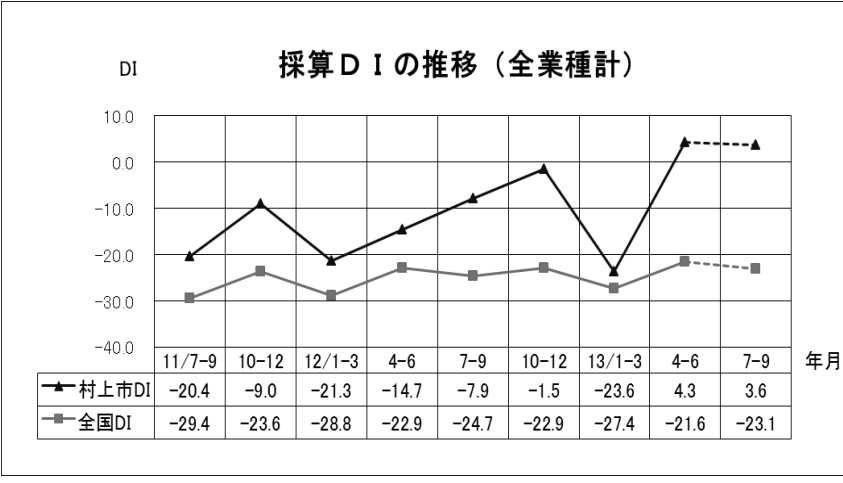


今期の受注DI(建設・製造業)は、前期比46.4ポイントの大幅増加で+17.9となり、前期における今期予測より3.6ポイント上回った。水準は調査開始以来最高。

〈DI内訳〉 前期 今期  
 建設業▲31.4 → +15.2  
 製造業▲20.0 → +27.3

来期については、42.8ポイントの大幅上昇で+14.3となる見通しである。

〈DI内訳〉 今期 来期  
 建設業+15.2 → +17.7  
 製造業+27.3 → +36.4

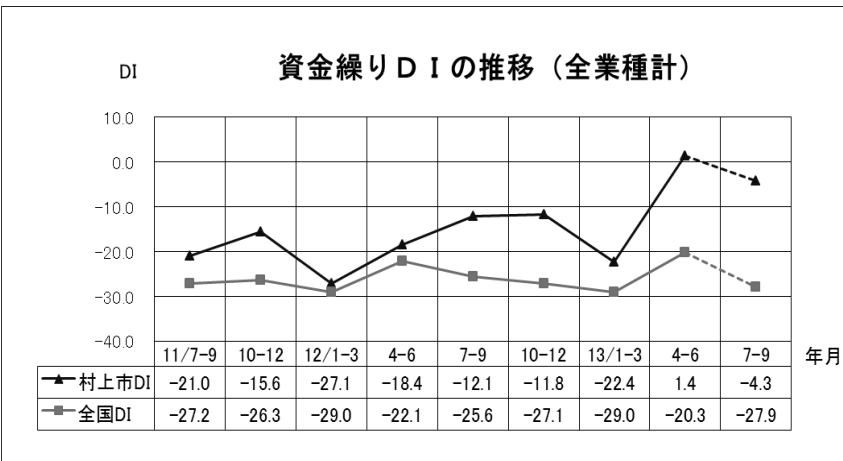


今期の採算DI(全業種計)は、前期比27.9ポイントの大幅増加で、+4.3となり、前期における今期予測より、11.3ポイント上回った。水準は調査開始以来最高。

全国DIは前期比5.8ポイント上昇し、▲21.6となり、8期連続で前年同期実績を上回っている。

来期については、0.7ポイント低下し、+3.6となる見通し。

全国DIも1.5ポイント低下し、▲23.1となる見通しである。

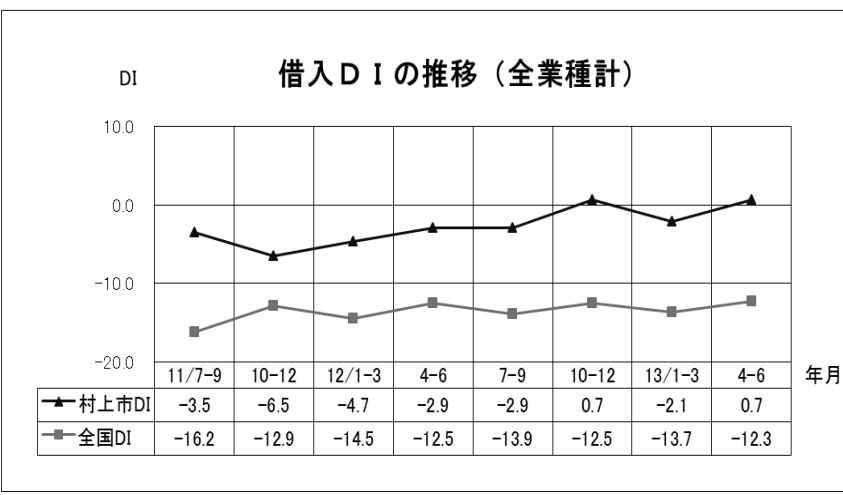


今期の資金繰りDI(全業種計)は、前期に比べ23.8ポイントの大幅上昇で、+1.4となり、前期における今期予測より、10.5ポイント上回った。水準は調査開始以来最高。

全国DIは前期比8.7ポイント上昇し、▲20.3となった。上昇は4期振り。

来期については、5.7ポイント低下し、▲4.3となる見通し。

全国DIも7.6ポイント上低下し、▲27.9となる見通しである。

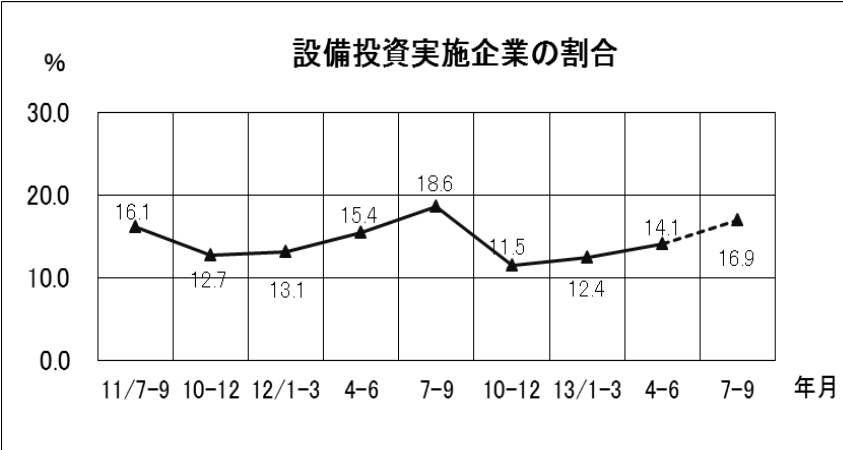


今期の借入DI(全業種計)は、前期に比べ2.8ポイント上昇下し、+0.7となった。水準は調査開始以来、2番目に高い。(10/10~12月 +1.5)

〈内訳は以下の通り〉  
 「容易になった」  
 前期 4.2% → 今期 3.5%

「変わらない」  
 前期 47.8% → 今期 48.2%

「難しくなった」  
 前期 6.3% → 今期 2.8%



全業種における今期に設備投資した企業の割合は、前期比1.7ポイント上昇し、14.1%となった。上昇は2期連続。

来期に設備投資を予定している企業の割合は、2.8ポイント上昇し16.9%となる見通しである。